

だいこん に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月13日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	軟腐病	黒斑細菌病	ワツカ症	白さび病	炭疽病	白斑病	亀裂褐変症	べと病	その他 病虫害							
リゾレックス粉剤							●			20～40kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	トルクロホスメチル	1回	14
ダコニール1000			●	●	●	●				1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫45日前まで	3回 以内	散布	T P N	3回以内	M05
ナレート水和剤	●									800～1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫21日前まで	3回 以内	散布	オキシリニック酸	5回以内	31
														有機銅	3回以内	M01
スターナ水和剤	●									1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫14日前まで	5回 以内	散布	オキシリニック酸	5回以内	31
カセット水和剤	●	●								1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	オキシリニック酸	5回以内	31
														カスガマイシン	3回以内	24
カスミンボルドー/ カッパーシン水和剤	●	●	●							1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	カスガマイシン	3回以内	24
														塩基性塩化銅	-	M01
バシタック水和剤75										種子重量の0.4%	は種前	1回	種子粉衣	メプロニル	3回以内(但し、種子粉衣は1回以内)	7
マイコシールド	●									750～1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	オキシテトラサイクリン	3回以内	41
ヨネポン水和剤	●	●		●						500倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	4回 以内	散布	ノニルフェノールスルホン酸銅	4回以内	M01

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

＜殺菌剤＞ だいこん

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	軟腐病	黒斑細菌病	ワツカ症	白さび病	炭疽病	白斑病	亀裂褐変症	べと病	その他病害虫							
ライメイフロアブル			●	●						2000～4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	4回 以内	散布	アミスルブロム	4回以内	21
ランマンフロアブル			●	●						2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	シアゾファミド	3回以内	21
Zボルドー	●									16倍 (1.6～3.2ℓ/10a)	-	-	無人航空機による散布	塩基性硫酸銅	-	M01
		●		●						16倍 (3.2ℓ/10a)	-	-	無人航空機による散布			
				●						500倍 (100～300ℓ/10a)	-	-	散布			
ネビジン粉剤								根こぶ病		30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	フルスルファミド	1回	36
サンボルドー							●			300～600倍	-	-	散布	塩基性塩化銅	-	M01
フロンサイド粉剤								亀裂褐変症（リゾクトニア菌）		30～40kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	フルアジナム	1回	29
バリダシン粉剤DL								亀裂褐変症（リゾクトニア菌）		20kg/10a	収穫7日前まで	4回 以内	株元散布	バリダマイシン	4回以内	U18

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

だいこん に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月13日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ガ イ マ ダ ラ ノ メ イ	カ ブ ラ ハ バ チ							
ラグビーMC粒剤						●			20~30kg/10a	は種前	1回	全面処理土壌混和	カズサホス	1回	1B
								ネコブセンチュウ	20kg/10a	は種前	1回	全面処理土壌混和			
									ネグサレセンチュウ	10~30kg/10a	は種前	1回			
アドマイヤー1粒剤	●								3~6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	イミダクロプリド	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、は種後の処理は2回以内)	4A
アドマイヤーフロアブル	●								4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、は種後の処理は2回以内)	4A
ダントツ粒剤	●								3~6kg/10a	は種時	1回	播溝処理土壌混和	クロチアニジン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)	4A
アルバリン粒剤/ スタークル粒剤	●								6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	ジノテフラン	5回以内(但し、は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)	4A
						●			4~6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和			
									9~12kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和			
						●		タネバエ	6kg/10a	生育期(但し、収穫30日前まで)	1回	散布			
アディオオン乳剤		●	●	●			●	ダイコンハムシ	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫30日前まで	4回 以内	散布	ペルメトリン	4回以内	3A
	●								2000~3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫30日前まで	4回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> だいこん

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ム シ 類	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ガ イ マ ダ ラ ノ メ イ	カ ブ ラ ハ バ チ							
フォース粒剤									6~9kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和	テフルトリン	2回以内(但し、は種時までの処理は1回以内、は種後は1回以内)	3A
						●			4~9kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和			
									6kg/10a	収穫14日前まで	1回	株元散布			
								タネバエ	4kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和			
リーフガード顆粒水和剤	●	●	●			●	●	●	1500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	チオシクラム	2回以内	14
モスピラン水溶剤		●	●			●		ダイコンサルハムシ	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	1回	散布	アセタミプリド	1回	4A
	●						●		2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	1回	散布			
ハチハチ乳剤	●	●	●			●	●	ナモグリバエ、ダイコンハムシ、白さび病、ワッカ症	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫30日前まで	1回	散布	トルフェンピラド	1回	I:21A F:39
マラソン乳剤	●								1000~3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	6回 以内	散布	マラソン	6回以内	1B
			●				●	ナモグリバエ	1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	6回 以内	散布			
コテツフロアブル		●	●					ダイコンサルハムシ	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	クロルフェナピル	2回以内	13
マッチ乳剤		●	●						3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	ルフェヌロン	3回以内 (昆虫成長制御剤)	15
プレオフロアブル		●	●	●			●		1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
アタブロン乳剤		●	●	●	●	●			2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	クロルフルアズロン	3回以内 (昆虫成長制御剤)	15

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

＜殺虫剤＞ だいこん

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 ＜備考＞	分類 コード	
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ガ イ マ ダ ラ ノ メ イ	カ ブ ラ ハ バ チ								その他 病害虫
カスケード乳剤									2000～4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	フルフェノクスロン	3回以内 (昆虫成長制御剤)	15	
		●	●					●	16～24倍 (0.8～1.6ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	無人航空機による散布				
										32倍 (1.6～3.2ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内				無人航空機による散布
ダントツ水溶剤	●								ダイコンハムシ	2000～4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	クロチアニジン	3回以内(但し、は種時の土壌混和 は1回以内、は種後は2回以内)	4A
ベストガード水溶剤	●									1000～2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	ニテンピラム	3回以内	4A
パダンSG水溶剤	●	●	●			●		●	ハモグリバエ類、 ダイコンハムシ	1500倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	カルタップ	3回以内	14
ランネット45DF	●	●	●					●		1000～2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫21日前まで	2回 以内	散布	メソミル	2回以内(但し、は種時の土壌混和 は1回以内)	1A
アグロスリン水和剤	●	●	●	●						1000～2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	シペルメトリン	5回以内	3A
スピノエース顆粒水和剤		●	●			●				2500～5000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	スピノサド	3回以内	5
アフーム乳剤		●	●							1000～2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	エマメクチン安 息香酸塩	3回以内	6
								●		2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布			
アニキ乳剤		●	●					● #		1000～2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6
デルフィン顆粒水和剤		●	●		●				オオタバコガ、ウ リノメイガ、シロ イチモジヨトウ	1000倍 (100～300ℓ/10a)	発生初期(但し、収穫 前日まで)	-	散布	BT	- ＜野菜類該当＞	11A

#：「カブラハバチ類」で登録

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> だいこん

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ムシ 類	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ガ イ マ ダ ラ ノ メ イ	カ ブ ラ ハ バ チ							
オルトラン粒剤	●	●	●						3~4kg/10a	は種前	1回	作条散布	アセフェート	1回	1B
ディアナSC						●			2500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
		●	●	●			●	●	2500~5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
プレバソンフロアブル5		●	●	●			●	● #1	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロラントラニ リプロール	3回以内	28
									20倍 (1~2L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	無人航空機による散布			
トルネードエースDF		●	●	●			●	● #1	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫21日前まで	2回 以内	散布	インドキサカルブ	2回以内	22A
		●	●	●			●	● #1	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫21日前まで	2回 以内	無人航空機による散 布			
サイアノックス乳剤	●		●	● #2					1000~1500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	CYAP	2回以内	1B
		●				● #3			1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布			
ファインセーブフロアブル		●							1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	フロメトキン	2回以内	34
モスピラン顆粒水溶剤		●	●			●			2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	1回	散布	アセタミプリド	1回	4A
	●						●		2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	1回	散布			
ウララDF	●								2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内	29
トランスフォームフロアブル	●								2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	スルホキサフロ ル	3回以内	4C

#1:「カブラハバチ類」で登録、#2:「ヨトウムシ（若～中齢幼虫）」で登録、#3:「キスジノミハムシ（成虫）」で登録

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> だいこん

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ムシ 類	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ガ イ マ ダ ラ ノ メ イ	カ ブ ラ ハ バ チ							
フェニックス顆粒水和剤		●							2000～4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	フルベンジアミド	2回以内	28
ガードベイトA								ネキリムシ類	3kg/10a	は種時～生育初期	4回 以内	株元散布	ペルメトリン	4回以内	3A
ダイアジノン粒剤5								コガネムシ類幼虫、ケラ、タネバエ、ネキリムシ類	4～6kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和	ダイアジノン	2回以内(但し、生育期は1回以内)	1B
								ネキリムシ類	6kg/10a	生育期(但し、収穫21日前まで)	1回	土壌表面散布			
						●			6kg/10a	は種時及び生育期(但し、収穫21日前まで)	2回 以内	は種時:作条土壌混和 作物生育中:株元土壌混和			
								ヒメダイコンバエ	6kg/10a	は種時	1回	作条土壌混和			
ネキリエースK								ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時	1回	土壌表面株元処理	イソキサチオン	1回	1B
デナポン5%ベイト								ネキリムシ類	3～6kg/10a	収穫30日前まで	4回 以内	株元散布	NAC	4回以内	1A
アクセルベイト								ネキリムシ類	3～6kg/10a	収穫7日前まで	2回 以内	株元散布	メタフルミゾン	2回以内	22B
パダン粒剤4						●			4kg/10a	は種時	3回 以内	覆土後土壌表面散布	カルタップ	3回以内	14
									4kg/10a	生育期(但し、収穫7日前まで)	3回 以内	株元散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

だいこん に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター
【令和6年11月13日現在】

<除草剤>

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (希釈水量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の総使用回数 <備考>	分類 コード
トレファノサイド乳剤	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	150～200mℓ/10a (100ℓ/10a)	は種直後	1回	全面土壌散布 (露地栽培)	トリフルラリン	1回	3
ラッソー乳剤	一年生雑草	150mℓ/10a (100ℓ/10a)	は種直後	1回	全面土壌散布	アラクロール	1回 <適用土壌：壤土～埴土>	15
タッチダウンiQ	一年生雑草	250～500mℓ/10a (25～50ℓ/10a)	耕起又はは種7日以前 (雑草生育期)	1回	雑草茎葉散布	グリホサート カリウム塩	2回以内	9
ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	200～500mℓ/10a (通常散布50～100ℓ/10a) (少量散布5～50ℓ/10a)	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	2回 以内	雑草茎葉散布	グリホサート カリウム塩	2回以内	9
		200～500mℓ/10a (通常散布50～100ℓ/10a) (少量散布25～50ℓ/10a)	収穫5日前まで (雑草生育期：畦間処理)	2回 以内	雑草茎葉散布			
パスタ液剤	一年生雑草	300～500mℓ/10a (100～150ℓ/10a)	収穫45日前まで (雑草生育期耕起前・は種前又は畦間 処理)	2回 以内	雑草茎葉散布	グルホシネート	2回以内	10

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。